

平成 28 年度 第 3 回八幡市子ども・子育て会議

会議録

平成 28 年 10 月 18 日（火） 午後 2 時 00 分～

八幡市役所分庁舎 会議室 A

1 開会

事務局：定刻前ですが、本日出席予定の方がみなさんお揃いですので、会議をはじめさせていただきます。本日の委員会については、八幡市子ども・子育て会議条例第 6 条第 2 項の規定により、過半数以上の出席をいただいていますので、会議が成立していることをここでご報告いたします。本日の傍聴者には 5 名の申込みがありましたので、傍聴させていただいています。会議に先立ち、前回欠席の委員より、一言、ごあいさつをお願いしたいと思います。

委員：9 月の会議には出席できませんでした。申し訳ございませんでした。八幡市民生児童委員協議会の岩崎です。よろしくお願いいたします。

委員：前は所用があり、欠席させていただきました。大事な会議に申し訳ございませんでした。昨年度までは八幡市立の公立幼稚園で勤務していましたが、今年度から、京都文教短期大学でお世話になっています。よろしくお願いいたします。

委員：前は欠席いたしまして、申し訳ございませんでした。山鳩第二保育園の園長の中村桂子です。よろしくお願いいたします。

事務局：ありがとうございます。続きまして、会長より、ごあいさつをお願いいたします。

会長：みなさん、こんにちは。前回、この会議で一生懸命に八幡の子どもをどうしたらしっかりと育てられるのかを真剣に考えていきたいと思います。この会議自体がそのようなエネルギーをもつ会になることを祈っています。そのためにも、今日は、さまざまな八幡市の状況をしっかりと共通の認識にもっていなければいけないと思います。主に説明で時間を取りますが、よろしくお願いいたします。

2 議事

・諮問事項

(1) 就学前児童を取り巻く状況について

会長：議事に入ります。前回の会議では八幡市就学前施設のあり方について、審議がさ

れました。今後のあり方を検討していく上で、先ほども申し上げましたが、現状の共通認識は非常に重要です。本日は就学前児童・施設を取り巻く状況について、事務局より詳しい説明をよろしくお願いいたします。

事務局：(資料説明)

会長：ありがとうございました。ご質問をいただきたいと思います。何でも構いませんので、よろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。また、思いつかれた場合は後半の就学前施設の状況についての説明のあとに再度、ご質問を承りたいと思います。よろしいでしょうか。

(2) 就学前施設の状況について

会長：事務局より説明をお願いいたします。

事務局：(資料説明)

会長：ありがとうございました。ここで就学前施設の状況について、先ほどのことについてもご質問をいただきたいと思います。いかがでしょうか。数値の上では分かりました。しかし、現場に立っていて気づいたことがあれば、特に就学前施設にお勤めの先生方は、さまざまなことを感じ取られることがあると思います。どんなことでも構いませんので、ご紹介していただきたいと思います。いかがでしょうか。

委員：今の説明を聞かせていただき、去年度まで現場にいましたが、公立幼稚園は特に園児数が減少しています。数字にも見られるように、保護者が就労されている状況が多いと思います。たとえば、3人兄弟がいた場合、上の2人は幼稚園に通園させていても、下の子どもは家庭の事情もあり、保育園に入れたいという声も多く聞かれました。園児募集に際しても、子どもの数も減り、すでに保育園に通っている方が多く、現在、上の子が幼稚園に通っていても下の子は保育園を考える傾向がひしひしと伝わってきました。非常に厳しいものがあつたかと思います。幼稚園では、子どもの最善の利益ため、各園が研究内容等を工夫して、子どもにとって、どのような環境が大事なのか、一生懸命に取り組んできた中で、人数が少なくなっていくことは非常に辛いことでした。

会長：ありがとうございました。以前、勤めていた頃の幼稚園について、お話いただきました。他にいかがでしょうか。

委員：公立保育園としては、このデータの数字にある通りです。子育て世代のお母さんで、0歳を抱えている方は、まだ保育園にとは思わず、家庭保育をされていますが、むずかしい年齢、1・2歳くらいになると、保育園に入った方がよい

のか迷いながらも、子どものことや経済的なことを考え、だんだんと入園されます。公立保育園においても、途中入園が多くなってきており、0、1歳児、特に1歳児くらいからの途中入園が目立つようになってきています。このように0、1、2歳の乳児の増加傾向にあると現場でも感じています。

会長：ありがとうございました。公立保育園の話をしていただきましたが、私立保育園についても、お願いいたします。

委員：私立保育園でも0、1歳の途中入園が多いように思います。現状としては、0、1歳で就労したいということで入ってくる方が多いですが、この年齢が一番、病気をしやすい年齢です。仕事につけても病気をして保育園を休まなくてはならず、仕事が定まらない悩みをもつ保護者が大勢いると思います。

会長：ありがとうございました。保育園、幼稚園と併せた認定こども園の先生からもお願いいたします。

委員：平成26年度までは3、4、5歳の子どものみを預かっていました。平成27年度より、認定こども園に変わり、0、1、2歳の子どもも受けています。昨年も0、1、2歳の子どもが大勢入りました。今年になり、さらに人数が増えました。0、1、2歳の子どもを預けたいお母さんが増えています。全体的に見ると、仕事をしたいお母さんが増えていること。子どもを育てて、自分の人生を全うしていく、すばらしい考えのお母さんが多いです。仕事をして、自分の人生も充実しながら子育てをする、お母さん自身の人生の考え方をもっている方が増えているように感じています。

会長：ありがとうございました。

委員：平成25年に認定こども園になり、0歳からの子どもたちを受け入れています。途中入園は、乳児であったり、出産後、しばらく育休に入ってから、仕事復帰で入園される子どももいます。一方、幼児は、乳児の下の子どもを家で見ながら仕事をしている方もいます。さまざまなかたちの入園の仕方があると思っています。

会長：ありがとうございました。保護者から見て、今の先生方のお話で数値に映像が加わり、イメージが湧いてきたと思います。保護者の方にお聞きしてもよろしいでしょうか。数字と異なる点やお気づきの点があれば、教えてください。

委員：私自身はまだ仕事についていないため、何を言えばよいのか、わかりません。

会長：また、気づいたことがあれば、よろしくお願いいたします。

委員：私には3人の子どもがいます。3人とも私立保育園でお世話になっています。一番下の娘が3歳になり、4月から保育園にお世話になっています。保育園を希望する手続きの際、途中入園できるかを確認したところ、途中入園はできないと言

われました。理由は、保育士を確保できないこと、1、2、3歳の途中から入園すると入りにくいことを言われました。0歳から入れば、0歳の子どもが1歳に上がるので0歳の年齢の枠が空きます。0歳から預けた方が入りやすくなると聞きました。保育園に入れることをはじめから決めていたので、0歳から入園できるように手続きを行いました。保護者としては、途中入園、月に関わらず4月からしか入れないではなく、もう少し、途中入園も枠を増やしてほしいと思っています。保育士の人数が少ない理由も分からなくはないですが、働いている親としては、いつでも保育園に預けられる状態、在職証明がなければ保育園に預けることができませんので、その手続きの期間も配慮していただき、枠を広げてほしいと思います。働くお母さん、お父さんのためにももう少し配慮していただければと思います。

会長：ありがとうございました。データを見ながら施設の先生方に意見をいただいておりますが、何か、感じ取られていることはありますか。

委員：私は今、公立幼稚園にいます。先ほどもお話がありましたが、2、3人目になると上の子どもは幼稚園に入れて、2、3人目は保育園に入れる傾向があります。公立幼稚園では預かり保育を行っています。パート等で就労されている方は、16時30分まで預かることにより、子育てをしながら働くことに対する自信がつかれます。もっと働けそうとなり、下の子どもは当面は祖父母に助けてもらいながら働きはじめて、そのまま保育園に入れるケースがますます多くなっています。預かり保育のある公立幼稚園に入れて、そこから就労に向けての意欲を積んでいける方もいることが1つの成果だと捉えています。お母さんがお勤めをされていない家で育てている子どもにとって、幼稚園の時間帯のコミュニティは非常に無理なく、よい環境なのではないでしょうか。我が園はさくら公園の隣にある幼稚園です。幼稚園の保育時間の14時に帰って、その後、さくら公園や近くの公園へ一緒に行くことや家でゆっくり過ごす時間をもてることは、小さな年齢の子どもとそのときにしか親子の関わりがじっくりできないという意味ではよいのかもしれません。しかし、それでは孤立化して、横とのネットワークがもちにくい家庭もあります。子育ての重圧を抱えることが辛いとの相談も受けます。子育て支援について、公立幼稚園のあり方を変えていくことも考えていかなければならないと思っています。具体的なことは1園で考えられることではありませんが、いろんな意味でもう少し柔軟性をもたせて、保育のあり方をこれから考えていかなければならないと思っています。

会長：ありがとうございました。事務局から何かありますか。

事務局：途中入園の受け入れや確保のお話がありました。近年の話ではなく、従来から待機児童ゼロを目標としています。それを目指して進めていかなければならないと考えています。今回、諮問内容である再編についても基本的には待機児童がない状況で進めていく話になると思います。先ほどの資料説明でも保育園の園児数が増えている、就園率も上がっています。また、低年齢化しています。1歳児は、30年ぐらい前と比べると2倍以上、ほぼ5割くらいの方が保育園に通っている状況です。八幡市の待機児童の話が出ていますが、4月1日の状況では、基本的には望まれる保育園に通っていただけるように各園のご協力のもと、確保しています。保育園の定員は、たとえば120人定員の場合、120人を1人でも超えたら受けられないというものではありません。国制度では、弾力的な運用が認められており、体制や面積などの基準を満たしていれば定員の20%以内であれば問題なく受け入れることが可能です。4月1日当初は調整をした上で待機児童を出さないようにしていますが、問題は年度途中です。年度途中の申込みが多い話がありましたが、おおよそ4月1日の0歳児は民間も公立も含めて70、80人です。それが3月になると、140、150人になり、倍近い園児数になります。0歳児の職員配置基準は、国で定められており、3対1となっています。0歳児が3人いれば、職員1人を配置しなければなりません。50、60人増えるということは年度途中で20人の職員を新たに確保しなければ、受け入れ体制が取れません。正直、年度途中の受け入れ体制が十分できないことはおっしゃっている通りだと思います。その一番の要因は施設の許容範囲ではなく、保育士がいないことです。受け入れる側の職員確保が年々厳しくなっている状況が原因だと考えています。もう1点、蒲生地委員からのお話にありました仕事で在職がなければ入れない制度についてですが、平成27年度から子ども・子育て支援新制度がはじまりました。今までは在職証明を基に入園枠を確保していました。内定でも構いませんでしたが、非常に厳しかったと思います。これが、就職活動を理由に入園できるように改善されています。

会長：ありがとうございました。新しい制度はそのような改善も入ってくると思います。

これから課題を解決していく上でまた、資料を出していただき、知恵を絞って考えていけるかと思っています。他にはいかがでしょうか。待機児童ゼロという心強いことを言っていると思います。この時代には非常に大変なことだと思いますが、市のありがたい考え方だと思います。他にはよろしいでしょうか。

委員：1つ1つ、現状をお聞きするわけではありませんが、今日の資料で資料1は現状を把握するための資料だと思います。なぜそうなのかという話は今、お聞きした

ものがその理由でしょうか。

会長：一部分です。言われたことに対する足りないところの説明でした。

委員：私は全くの素人ですので、余計にそのように感じるのかもしれませんが、現状はこうです、この数値で推移していくと先を予測します。その背景は何ですかというところが気になり、その話を聞くと、それが理由だと吸い込まれてしまいます。これが全て集約された理由だと受け止めてしまいます。ゼロから知識が増えていくだけなので、それでも構いません。しかし、アンケート等で広く多数の当事者に理由を伺うような機会が、次のアンケート等に出されるのでしょうか。それとも、もうないのでしょうか。

事務局：アンケートの中でも市民、就学前の保護者の方の意向を取ります。次の説明予定でしたが、今回のアンケートではポイントを絞ることを考えています。実のところ、子育ての関係では、毎年のように、アンケートを実施しています。去年は子ども条例の策定に向けた市民アンケートを実施しており、その1年か2年前には、子ども・子育て事業計画の策定のためにアンケートを実施しています。これらは子育て全般のアンケートですので、今回は、就学前施設に関するアンケートを実施するように考えています。先ほどの説明も断言せずにある程度、さまざまな考えられることや背景を説明させていただいたつもりです。事実関係としては、保育園の子どもが増えてきていることは数値で出てきています。幼稚園の子どもは減ってきていますが、この数値も出てきています。その背景を考えた際、別の資料を見てみると、女性の就労状況は昔と比べて倍以上の就業率になっています。当然、そこは関係がありますが、それだけではありません。子どもがいる女性が働いているとは限りません。子どもがいない女性が働いていることも考えられます。この中で実際に働いている家庭が多いこと、働きたい方が増えてきていることも含めて、保護者がどのようになってきているのか、この場にも現場の先生方が大勢お見えですので、いろんな意見を聞く中、また、参考になるようなアンケートでどのような理由で施設を選ぼうとしているのか等を聞いていきたいと思っています。ある程度、そこで結果が出てくるのではないのでしょうか。

会長：よろしいでしょうか。

委員：ありがとうございました。今回の資料1の数字やまとめ方、説明の仕方、非常にすばらしく、分かりやすいと感じていましたのでそれを言うてからと思っておりましたが、つい先に言いたいことを言うてしまいました。私は今までの資料説明と先生方の話を聞いて、それでもとなりますが、子どもにとって一番よいこの年代の過ごし方を頭のどこかに置かなければならないと思っています。今のお話を聞

くと、お母さんの現実が先に来ているような気がします。私は申し訳ございませんが、事業の関係者です。できないかもしれませんが、子どもにとって一番よい方法、姿は何かを見失わないようにして、お父さんやお母さんが働く環境、子どもに接する環境をとらえることができると考えています。

会長：ありがとうございました。

委員：今のご意見は、まさしくそうだなと思います。私はこの春からもう一度、今までの自分の仕事を振り返るような仕事をしています。子どもにとって、特に就園前の子どもにとって、何が一番、その子どもの人生に影響するのかを考えます。子どもがしっかりと自立に向けて、信頼関係、自分が第一にされている、愛されている確信をもって、大人になっていくことが大事だと思います。そこをしっかりと育てていくことを基本にしながら、今後の八幡市の就学前施設をどのように高めていくのか、大勢の方の意見をまとめながら、すばらしいものをつくり出してほしいことを切に思っています。子どもが愛されて育っていくことを大事にしていきたいと思います。

会長：ありがとうございました。

事務局：この会議で諮問内容を議論していただく方向性の中に当然、みなさんの税金で賄われる公費の使い方も関係してくると思います。公立施設は、コストの制約の中で運営しています。それを無視するわけにはいきません。しかし、コスト一辺倒でこの話を進めていくことも、また違うと思います。いかにお金を有効に使っていくのか、これが1つの大きな柱になります。もう1つは諮問内容の2点目、八幡市の就学前の保育・教育の充実に向けてです。その課題は次々回くらいの話になってくると思いますが、さまざま課題があります。たとえば、教育内容を充実させていくためにはそれなりに先生の数を増やしていかなければなりません、現状でそれが可能かどうかで言えば、それはできません。それをどうしたらできるのかを考えていこうと思ったときに1つの手法として、統廃合による再編で一定の人員を確保する中で、統合した施設に投資していくことです。配慮を必要とする子どもに対しても、どのようなかたちで体制を整えていくべきか、小学校には現に専門的な資格をもつ先生が配置されていますが、就学前にもそのような人が必要になってくると思います。ここで議論していただく中で、より充実した、今後の八幡市の就学前施設のあり方や方向性を示していただきたいです。

会長：ありがとうございました。私たちが目指しているのは、まさに岩崎委員や他の委員のお話にもあったことが最終の目的だと思っています。今日は数値を示していただき、事務局の話聞いて、だからできないではなく、現状はこうだが、ここ

で八幡市の子どもをこのように育てようというところのできない部分はどうすればよいのかの知恵を出して、必要などころはお金のことも含めて進めていくこと、必要性をここで話をしていくことは非常に大事だと思います。そのような意味で今日はデータを出していただきました。データがこうだから、こうしかできないでは全くございません。おそらく、教育は年々変わっていますが、今年、来年は大幅に変わり、法的にもいろいろ変わってくると思います。私たちが以前のようにこれだからできないとズルズルとは言っていないと思います。データを知った上で実現可能なことを見出す、今日は資料の提供だったと考えたいと思います。他にはいかがでしょうか。なければ、この議案を終わらせていただきますが、よろしいでしょうか。では、ありがとうございました。

(3) アンケート調査の実施について

会長：事務局より説明をお願いいたします。

事務局：(資料説明)

会長：ありがとうございました。調査を行うということで、内容説明が事務局よりありました。この件について、ご質問はありますでしょうか。

委員：アンケート内容を説明していただき、非常によく分かりました。最初に配慮していただいたように、忙しい中、お母さんやお父さんにアンケートを取っていただきますので、すぐに書けるように分かりやすく、答えやすく、嫌々ではない気持ちで答えていただきたいことが、こちらの現場としての強い思いです。また、目を通していただきたい中には5、6ページのように満足度や重要度をしっかりとお父さんやお母さんが感じていただき、これからの施設に反映できるように取り組んでいただくためにも、委員のみなさんからもご意見がいただければ、うれしいと思います。

会長：義務で答えるのではなく、教育・保育を良くしたいという気持ちで答えていただけるとよろしいかと思います。10月1日現在の内容で答えていただきます。回収はいつ頃でしょうか。

事務局：できれば、11月初旬に配布して、長く伸びても回収率が下がるとお思いますので、11月中旬までに回答いただければと思います。集計には時間がかかると考えていますが、年明けには速報資料を出したいと考えています。

会長：ありがとうございました。他にはよろしいでしょうか。以上で、今日の議事は全て終了しました。マイクをお返ししたいと思います。ありがとうございました。

・その他

事務局：会長、ありがとうございました。委員のみなさんも長時間に渡り、ありがとうございました。本日の会議での疑問等があれば、お気軽に事務局、保育・幼稚園課で承りますのでご連絡をお願いいたします。

事務局：(資料4の説明、今後のスケジュール説明)

次回予定：11月22日(火)

事務局：それでは、これで閉会させていただきます。みなさん、長時間、ありがとうございました。

3 閉会